



ピースボート
地雷廃絶キャンペーンP-MAC
2010年度活動報告書

はじめに

ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MACの活動にご協力いただきまして、ありがとうございます。

1985年、ピースボートは初めてカンボジアを訪れました。その後何度かの訪問を経てカンボジアの地雷被害の大きさを学びます。当時、世界中の国々で地雷問題は危機的状況を迎え、「20分に1人」世界のどこかで地雷被害者が出ていました。中でもカンボジアは、もっとも地雷問題が深刻な国の1つ。町には手足を失った人々が行き交い、物乞いする人も多く見かけられました。医療体制の整っていない病院には、次々と被害者が運び込まれていました。そして地雷原で、命がけの地雷除去作業を行う人々にも出会いました。私たちは手足を失いながらも必死に生きようとする人々、安全な土地を取り戻そうと働く人々を支援し、地雷そのものに反対するためピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MACを立ち上げ、活動を開始し、地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)にも加盟しました。

2010年度も地雷除去募金「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」に多くの学校、団体、個人の方々からご支援をいただきました。今年集まった募金も現地地雷除去機関「CMAC(カンボジア地雷対策センター)」に受け渡し、カンボジア北部プレアヴィヘア州の2つの村で地雷除去が行われました。

2011年3月11日の東日本大震災発生直後より、ピースボートでは宮城県石巻市を中心に被災地での緊急・復興支援を行っています。被災地で活動する中で世界中の国々からの心あたたまる支援をいただき、改めて国際協力の重要性に気付かされました。P-MACでも地雷除去支援、被害者への支援を通じて国際協力を進めていきます。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



2010年度P-MAC 活動カレンダー

2010 4

- ・「アースデイ東京2010」でブース出展(東京)
- ・第69回「地球一周の船旅」でカンボジア地雷問題検証ツアー実施

6

- ・埼玉県ふじみ野市・福岡中学校で地雷教室開催
- ・コーケー村保健所建設開始(カンボジア)

7

- ・コーケー村保健所建設終了(カンボジア)

8

- ・愛知県豊橋市・豊橋中央図書館で地雷教室開催(豊橋市平和教育委員会主催)
- ・大阪府千早赤阪村・村立中学校で地雷教室開催
- ・奈良県生駒市・鹿の台中学校で地雷教室開催
- ・第70回「地球一周の船旅」でカンボジア地雷問題検証ツアー実施
- ・スラヨンチュング村地雷除去開始(カンボジア)

9

- ・「愛フェス2010」でブース出展(愛知)
- ・スラヨンチュング村地雷除去終了(カンボジア)

10

- ・「グローバルフェスタJAPAN2010」でブース出展(東京)
- ・東京都国分寺市・第十小学校で地雷教室開催

11

- ・「そら祭り」にブース出展(宮崎)
- ・第71回「地球一周の船旅」でカンボジア地雷問題検証ツアー実施

12

- ・山梨県上野原市・上野原中学校で地雷教室開催
- ・山梨県昭和町・常永小学校で地雷教室開催
- ・P-MAC協力によるチャリティークリスマスコンサート開催(横浜)

2011 1

- ・「カンボジア報告会 心の繋がり ―9ヶ月間のカンボジア生活で見えてきたもの―」開催(東京)

2

- ・東京都狛江市・狛江第三中学校で地雷教室開催

3

- ・「紛争、貧困、環境破壊をなくすために 世界の子どもたちが語る20のヒント」(合同出版)でP-MACの活動が紹介される

※100円キャンペーン街頭募金を通年で73回実施



100円キャンペーン

カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン

2010年度募金の支援報告

地雷除去には気の遠くなるような時間と労力がかかります。しかし、地雷除去にかかるコストは1平方メートルあたりおよそ100円。そこでP-MACでは、募金活動「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」を展開。集まった募金は現地地雷除去団体「CMAC（カンボジア地雷対策センター）」へ送り、2011年までに約120万平方メートルの土地から地雷が除去されました。

2010年度は、合計2,430,094円を100円キャンペーンで集めることができました。ご協力いただきましてありがとうございました。

2010年度 100円キャンペーン募金報告

2010年度の募金総額
¥2,430,094-

[上記の募金は以下のプロジェクトに使用しました]

| | |
|-------------------|--------------------|
| スラヨンチュング村地雷除去（※1） | ¥ 170,652 |
| スナファエク村地雷除去 | ¥ 2,147,195 |
| 次回地雷除去支援への繰越 | ¥ 112,247 |
| 合計 | ¥ 2,430,094 |

（※1）スラヨンチュング村地雷除去プロジェクト予算の総額1,231,175円の内170,652円を2010年度募金より支援

プレア・ヴィヘア州スラヨンチュング村

カンボジア北部、タイ国境付近のプレア・ヴィヘア州は、内戦中、クメール・ルージュ（※）が支配し、大規模な戦闘地となりました。そのため人口の40%以上・約4万9千人が地雷被害と隣り合わせの生活を強いられています。スラヨンチュング村は、1981年から1982年までは軍事基地となりました。政府軍とクメールルージュ軍が基地を守るために地雷を施設し、また戦闘により多くの不発弾が残ったままとなっています。調査では今も54ヘクタールの土地が地雷原とされ、わずかにある安全な土地に1,900人の村人が住居をつくり暮らしています。P-MACが地雷除去支援を行った土地には今後、役場や保健所、警察署が建設されます。

※クメールルージュ：ポルポト書記長が率いたグループ。1970年代後半、約4年間にわたりカンボジアを支配したポルポトは、政権を追われてからもカンボジア北部を中心に支配地域を持ち、内戦を続けた。

◎報告

| | |
|----------|---|
| プロジェクト期間 | 2010年8月1日から2010年9月15日 |
| 支援金額 | ¥ 1,231,175 |
| 地雷除去結果 | 地雷除去面積 55,265平方メートル 対人地雷 14個 手製地雷 1個 不発弾 13個 |





プレア・ヴィヘア州スナハイ村

スナハイ村もスラヨンチュング村と同様、軍事基地となり多くの地雷や不発弾が埋まったままになっています。村に暮らす37家族の集落のすぐ隣が地雷原で、その地雷原を通り近くの池に水汲みに行ったり、子どもたちが牛飼いをしたり、人々は地雷原と指定された土地も生活の場としていました。P-MACでは、この土地の地雷除去を支援しました。今後は池の周辺の整備が行われ、小学校などが建設されます。

1998年から2011年までの支援実績



- a ポーサット州プレア・ルング村小学校 … 地雷除去と学校建設
- b ポーサット州ストエン・トメイ村小学校 … 地雷除去
- c ポーサット州チュンカ・チュレイ・チュング村保健所 … 地雷除去
- d バンテアイミンチェイ州オサンポール村小学校 … 地雷除去と学校建設
- e プレアヴィヘア州コーケー村小学校 … 地雷除去と学校建設
 プレアヴィヘア州コーケー遺跡 … 地雷除去
 プレアヴィヘア州コーケー村保健所 … 地雷除去と保健所建設
 プレアヴィヘア州スラヨンチュング村 … 地雷除去
 プレアヴィヘア州スナハイ村 … 地雷除去
- f シェムリアップ州クワオ地区小学校2校 … 地雷除去

以上の支援により120万平方メートル以上の土地から、276個の地雷と378個の不発弾が除去されました。

◎報告

| | |
|----------|---|
| プロジェクト期間 | 2011年5月1日から2011年11月30日 |
| 支援金額 | ¥ 2,147,195 |
| 地雷除去結果 | 地雷除去面積 101,579平方メートル 対人地雷 53個 不発弾 25個 |



カンボジア・ボランティア報告

P-MACでは2010年3月、カンボジア地雷問題検証ツアーを行いました。ツアー中、P-MACが支援を続ける「カンボジア・ハンディクラフト・アソシエーション(CH A)※」を訪問。ツアー参加者の1人・竹村彩花さんがその後、CHAにボランティアとして9ヶ月間滞在しました。CHAで職業訓練を受ける障がい者の女性たちと共に生活しながら働いた彼女からの報告をご紹介します。

※カンボジア・ハンディクラフト・アソシエーション(CH A) Cambodian Handicraft Association for Landmine and Polio Disabled
地雷被害者やポリオ(小児麻痺)による障がい者の女性が手に職をつけて自立できるようにと、設立された現地NGO。障がい者たちがカンボジアシルクを使った商品の製作や小規模ビジネスについてトレーニングを受けている。これまでに350名以上がCHAを卒業し、社会復帰をはたす。



報告者：竹村彩花

同志社大学5回生。2009年に「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」に協力、大学の仲間と京都で募金活動をおこなう。P-MAC地雷問題検証ツアー参加後、CHAでシルク商品の開発、販売に携わる。帰国後、京都で「カンボジアフェスティバル」を開催。カンボジアに縁を持つ関西の団体や個人を繋げるため「関西カンボジアネットワーク(KCN)」を設立。

-障がいをもつ女性たちとの生活-

私はP-MACのツアーで初めてCHAを訪問した際、ボランティアを必要としていることを知り、ツアー直後から9ヶ月間、CHAの女性たちと寝食を共にしながら過ごしました。現地に腰を据えることで多くの発見や衝撃、感動がありました。共に働き、生活する中で彼女たちはこれまでの経験を語ってくれるようになりました。「CHAに来る前は食べて寝るだけの同じ日々を繰り返すだけで生きている価値がなかった」「障がいのせいで学校に行けなかった」「耳が聞こえないことで虐待を受けた」と語る彼女たちの言葉から、障がい者に対する偏見や差別が根強く残っていると感じました。そして、そんな話をしてくれるようになった時、少しでも彼女たちに寄り添えるようになったのかなと感じることができました。CHAは、そんな社会の弱者とよばれる彼女たちが社会の一員として働くことができる場です。私はそのような話を聞く度、彼女たちがつくるシルク商品の質の向上や拡販にできる限り成果を出そうと思いました。

-支援とは-

ある日、CHAの代表であるキム・タさんから「お米の支援をしてくれる人を探してほしい」と言われました。今の経営が厳しい訳ではないけれど、CHAで暮らす人々の毎日の食料であるお米への支援

により、さらに多くの障がい者を受け入れたいという理由でした。彼のその思いには共感する一方、これまで自分たちの作った商品を販売して運営資金を集めていたCHAにとって「お米=お金の支援」は資金を集める方法を変えてしまうのではないかという不安と団体の継続性までも揺るがしてしまう気がしました。私には苦渋の決断でしたが、「もっと彼女たちが作るシルク商品の質の向上や拡販に力を注ぎ、商品が売れるように一緒に頑張りませんか」と提案しました。彼も最後は、私の判断を受け入れてくれました。

「お金さえあれば何でもできる」という感覚を覚えることは、支援に依存し、自分たちの手で収入を得る努力や社会復帰への目標を失うことにつながります。それは、自立への道を閉ざしてしまうことになりかねません。CHAのスタッフの1人が、「魚を買うのはお金があれば簡単だけど、どうしたら魚が釣れるのか教え、その技術や知恵を身につけることが大切だ」と言っていたことを思い出します。彼女たちの「現状を変えたい」と思う気持ちが援助によって成されるのではなく、自分たちの力で切り開いていく気持ちがあればこそ発揮できるような社会であってほしいと思います。そのためにも、彼女たちの作った商品をこれからも日本で販売し続けることで、1人でも多くのカンボジアの障がいを持つ女性たちが夢や希望を持てる社会の実現と一緒に頑張りたいと思います。



P-MACニュース

コーケー村保健所除幕式

2010年11月3日、地雷除去と保健所建設を支援したコーケー村保健所の除幕式が行われました。私たちが保健所に到着すると、コーケー村のほとんどの村人、そして地雷除去を行ったカンボジア地雷対策センター（CMAC）の隊員も集まり出迎えてくれました。ジャングルに埋もれた陸の孤島のような村で500人以上が集まり、お祭りのようににぎやかな式典となりました。除幕式は僧侶にお経を唱えていただくことから始まりました。その後は州副知事、ピースボートを代表してスタッフの森田幸子、CMAC代表のヘン・ラタナ氏のスピーチに続いてテープカットを行いました。除幕式の翌日からは看護師が常駐し、簡単な治療が行えるようになりました。コーケー村では、子どもたちが衛生面の問題からお腹を壊したり、マラリアに感染することが多く、それでも治療を受けられる場所がありませんでしたが、この保健所で診察を受け、薬を処方してもらえるようになりました。

コーケー図書館プロジェクト

P-MACでは地雷除去と小学校建設を支援し、2005年に完成したコーケー小学校の図書館への支援を続けています。現在、コーケー小学校には、学校の先生だったカンボジア人女性、ポニアリー・リーが始めたNGO「ポニアリー・リー財団（PLF）」が本を揃え、村の女性に司書のトレーニングを行うなど、図書館の支援を行っています。これまでP-MACでは、PLFと協力して本の支援を行ってきましたが、今回はアーティストや社会活動を支援している「ing42」と山形でバンド活動を行う「メロメ」がそれぞれライブイベントを開催し支援金にご協力くださいました。その支援により2010年には本棚と本、司書のための1年間の人件費を支援することができました。

現在、コーケー村の子どもたちは小学校が終わると図書館へ行き、学校で覚えたばかりの文字を声に出して読みながら、読書を楽しんでいます。中には文字の読めない親たちを図書館に連れてきて、親に本を読んであげる子どもたちもいます。外の世界の情報源が全くない村に住む子ども達にとって、本は文字を学ぶ教材であると同時に、子どもたちの世界観を広げてくれるツールでもあるのです。





カンボジアから地雷をなくそう!!
100円キャンペーンにご協力ください

| | |
|--------|-----------------------|
| 郵便振替口座 | 00130-3-557600 |
| ゆうちょ銀行 | 019店 / 当座0557600 |
| 加入者名 | ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC |

「なんだろう地雷出前教室」
出前先募集中!!

P-MACで活動するスタッフが、地雷問題についてわかりやすく出前授業します。地雷原に暮らす人々、地雷被害者、除去活動をする人々の声、そして今私たちにできることをお伝えします。これまで小学校、大学、地域の公民館、職場など、様々な場所で行っています。ご依頼、ご質問はピースボートまでご連絡ください。

ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2010年度活動報告書

発行 ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC
編集 森田幸子
発行日 2012年3月
写真 内田和稔・竹村彩花・ピースボート

[この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いいたします]

ピースボート

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL 03-3363-7561
FAX 03-3363-7562
E-MAIL pmac@peaceboat.gr.jp
URL <http://www.peaceboat.org/project/jirai>